

三島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎学力の定着を図り、個に応じた指導の推進
- ②主体的に学習に取り組む習慣をつけるための家庭学習の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大塚みどり	校長 寺西 昭人 教頭 藤田 勝久 教務 畠中 剛喜 1学年主任・国語科主任 大塚みどり 2学年主任 小林 晃子 3学年主任 原田 尚子 数学科主任 宮田 英和

校長

寺西 昭人

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算の基本的な法則の理解等について、ある程度定着が見られる。 ○タブレットを使い、調べることができる。 ●自分から進んで質問する等、主体的に学習に取り組むことのできない生徒が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を習得することができる。 ②授業中、わからないことをそのままにせず、自分から進んで質問することができる。 ③学習準備を事前に行い、授業に集中できる環境を整えられる。	①学習準備が整うように、早めに教室に行き、声かけを継続していく。 ②プリントを丁寧に仕上げ、各教科の小テストの正答率を70%以上にする。 ③めあてを提示し、見直しをもって学習に取り組ませ、授業の終わりには、まとめやふりかえりを確実に実施する。	①2学期も1学期の取組を継続しつつ、ステップアップテストや全国学力学習・状況調査で明らかになった課題を計画的に授業等に取り入れる。	①各教科とも授業の目標と一連の学習の流れを示し、見直しをもって学習に取り組むことができた。 ②電子黒板にプリントを拡大し、その画面を見ながら教師の説明とともにプリントを丁寧に上げることができた。併せて、大切なポイントも説明することができた。 ③各教科毎の小テストや単元末テスト等で正答率を70%以上にすることがほぼできた。	・今年度に引き続き、各教科で授業の目標と学習の見直しをもった取組を継続する。 ・タブレット端末を活用した朝学習の内容を検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順が示されている学習に、集中して取り組み、課題解決のためのグループ活動に取り組むことができる。 ○ICTを使い、自分の考えを表現することができる。 ●自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが十分でない。 ●相手に伝えることに苦手意識をもっている生徒が多い。	①自分の考えを伝えることの大切さを理解するとともに、なぜそう考えたのか根拠や理由を明らかにして、自分の考えをわかりやすく表現することができる。 ②自分の考えだけにとどまらず、仲間とともに共有することができる。	①タブレット等を活用し、生徒自身の考えを表現できる機会を増やす。 ②定期テストに思考力や表現力を問う問題を出題する。 ③授業力向上のための研修や授業研究会を実施する。 (「まなびウィーク」:2回以上、授業研究会:2回以上)	①校内研修で、「思考力・判断力・表現力等」の評価の仕方について、考える時間を設ける。	①思考力・判断力・表現力等の育成を図れるような内容を取り入れた定期テストやワークシートの作成ができ、板書等の工夫もできた。 ②学期毎に1回「まなびウィーク」を設け、授業力向上のための研修ができた。	・授業力向上のために「まなびウィーク」を再度検討し直す。 ・タブレットの効果的な活用について、研修の場を設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた態度で話を聞いたり、与えられた課題に一生懸命取り組んだりすることができる。 ○学習の準備や板書をノートに写す等、基本的な学習態度がほぼ定着しており、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●学習に意欲的に取り組むのに時間がかかり、家庭学習のやり方や習慣が十分でない生徒が見られる。	①テスト前には「ふりかえり手帳」を使った「学習計画表」を作成し、計画的に勉強することができる。 ②その日の学習内容を家庭学習で、毎日復習することができる。	①学習課題を確認・実行させる。 ②主体的な取組につながるよう、励ましや褒める言葉をかける。 ③学習アプリの活用や「GoGoタイム」の実施を通して、意欲を高める。 ④スタディサプリの使用頻度を定期的に確認し、積極的な活用につなげていく。	①校内研修で、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方について、考える時間を設ける。	①「ふりかえり手帳」等を計画的に活用することで、見直しをもって学習に粘り強く取り組もうとする生徒の姿が見られた。 ②「GoGoタイム」を継続的に行うことはできなかったが、生徒が自主的に質問する場もあり、意欲的に取り組む様子がうかがえた。 ③「GoGoタイム」以外にも、生徒が自主的に質問に答える場面や家庭での学習時間が増えた等、積極的に学習に取り組む姿がよく見られるようになった。	・次年度も見直した形で「GoGoタイム」を継続し、学力向上につながるような手立てを考え、全職員で取り組んでいく。 ・スタディサプリを家庭学習や予習・復習で活用できるように工夫する。

令和4年度 学力向上ロードマップ

